

本年 5 月の水星の日面経過

5月11日に水星が太陽面を経過する。但し本年の場合は甚だきわどい経過であつて、水星の視直径は僅かに12秒しかないのに、それが全部太陽面に入らず、半分程が太陽面の縁をかすつて行くのである。

年	月	日
1907	11	14
1914	11	7
1924	5	7
1927	11	10
1937	5	11
1940	11	11
1953	11	14
1957	5	5

而かも、之の現象のよく見えるのは、南部アジア、フィリピン群島、西部オーストラリア、インド洋、中央及び南部アフリカであつて、吾國からは西方低く且つ日没時なので餘りよく見えぬ。併し臺灣まで行けば兎に角、日没になるまでに凡ての現象を観測する事が出来る。其處で臺中に於ける時刻を計算してみると大體、初觸は16時47分、終觸は17時7分（時刻は西部標準時）となり、日没は18時30分である。従つて十分な観測をするためには

臺灣へ行く必要があり、花山天文臺の公文理學士は之れが観測のため臺中へ出張される豫定である。

尚ほ、水星の軌道運動は相當複雑であり、日面経過の豫報は日月食の場合程にも正確には出せないものであつて、豫報と観測との誤差は20～30秒にも達した事さへある。

今度のは日面部分経過であるため、觸の時刻を観測するのは相當に困難ではあるが、然し特種な経過丈けに、又變つた方面からの観測好期とも言へるわけである。即ち、水星に大氣が存在するか否かを分光器で調べる可能性がある。例へば太陽分光寫真儀で経過中の水星を撮影すると、大氣があれば太陽からの光は屈折して、水星を取り巻く薄い光輝のリングが現はれる筈である。又、完全なリングとならないまでも、何等かの異狀が認められるかも知れない。斯かる観測のためには普通の経過と違つて、太陽周縁に半時間も懸つてゐる今度の場合は好都合であるわけだ。

序ながら、水星日面経過の過去及び將來の月日を表にすると上の如くである。之の表を見ると何れも5月から11月に限られてゐるが、之れは11月には水星がその軌道の昇交點を、5月には降交點を通過する場合に相當してゐるからである。（星見）